

## QProbe 法を用いた PCR による *M. avium*, *M. intracellulare* 同時検出試薬の検出性能評価

◎畠山 慎治<sup>1)</sup>、吉兼 峻史<sup>2)</sup>、道渕 真史<sup>2)</sup>、高梨 真樹<sup>3)</sup>、鈴木 広道<sup>4)</sup>  
筑波大学附属病院感染症科, 株式会社 LSI メディエンス<sup>1)</sup>、東洋紡株式会社, 筑波大学医学医療系感染症内科学<sup>2)</sup>、株式会社 LSI メディエンス<sup>3)</sup>、筑波大学附属病院感染症科, 筑波大学医学医療系感染症内科学<sup>4)</sup>

### 【目的】

*Mycobacterium avium* (MAV)及び *Mycobacterium intracellulare* (MIN)は、肺 MAC 症を引き起こす主要な原因菌であり、塗抹検査や培養検査に加えて遺伝子検査による鑑別が幅広く行われる。今回、我々は現在開発中の Quenching Probe 法 (QP 法) を用いた MAV 及び MIN の同時検出試薬 (以下、本試薬) について、検出性能評価試験を行った。

### 【方法】

本試薬による全自動遺伝子解析装置 GENECUBE® (東洋紡)での測定について検出性能評価試験を行った。測定試料として、0.2% BSA を含む精製水 1 本及びNALC-NaOH 処理済み喀痰検体プール 3 本に対して、MAV, MIN の各標準菌液を添加した 4 濃度水準(300, 100, 30, 10 CFU/mL)を作成し、N=16 で測定を行った。

### 【結果】

各濃度水準(300, 100, 30, 10 CFU/mL)での検出率は本試薬において MAV で 100%, 94%, 63%, 25%、MIN で 100%, 88%, 56%, 38%であり、MAV, MIN 共に 300 CFU/mL で全例検出し、100 CFU/mL で 9 割程度検出した。また、本試薬での偽陽性や Invalid による再検査は認められなかった。

### 【結論】

本試験において本試薬は MAV 及び MIN のいずれにおいても高い検出性能を示すことが確認された。

筑波大学附属病院感染症科 - 029-853-3682